

早稲田大学 教育学部 日本史 講評

〔総合分析〕

| | |
|--------|---|
| 出題形式 | マーク・記述併用 |
| 試験時間 | 60分 |
| 特徴・その他 | 本学部ではハイレベルな選択問題や正誤問題が「すべて選べ」と出題されて例年苦しめられるが、今年はそれが易しめであった。また、未見史料が多く出されているが、設問にもヒントが隠されているためなんとか解くことはできるレベルに収まっている。全体的には例年より易化したと言える。 |

〔大問別講評〕

| 番号 | 出題内容 | コメント | 難易度 |
|----|------------|--|-----|
| | 古代の仏教文化 | 『往生要集』は大変出題率が高いものなので、書かれた年代(985年)まで覚えておきたい。そこから考えれば問8は容易に正解できた。これを「宋へ送られた」と単に用語暗記で済ませてしまう学習から脱却してほしい。 | やや易 |
| | 茶・織豊政権 | 史料(1)(2)はともに未見史料なので推測で解く問題が多い。問4は時期を考えれば2つが消去できることに気づいただろうか。問5は「三方ヶ原の戦い」が難しいが、それを除けば下線部が誰かわからなくても消去法で正解できた。あらゆる方向から問題にのぞんでほしい。 | 易 |
| | 江戸時代の百姓一揆 | 問2は国語力で解けるだろう。問9は「天保期」というのを単純に「天保の改革」の時だと考えると正解できない。天保の改革は1841年から始まったが、天保という元号は1830年から始まっている。天保の飢饉の中で1837年に大塩平八郎の乱がおこったことを考えればある程度わかるだろう。 | 易 |
| | 大日本帝国憲法 | 大日本帝国憲法の規定はおろそかにしている受験生が多い。概して受験生は政治体制のしくみより、歴史の物語を好むようである。しかし、ルールを知らずにゲームができるわけもない。どこまでしくみを知る必要があるかの水準がわからないのがもどかしいだろうが、とりあえずこの大問に難問は一つもない。全問正解してほしい。 | 易 |
| | 太平洋戦争前後の史料 | 問2・3は一見難問に見えるが、史料文と「第二回大会」をヒントに導き出す。問4は難問だが、過去問をたくさん解いて山川出版の用語集でチェックしていた人は、出題が予想できたかもしれない。 | やや易 |